



学校だより

小田原市立橋中学校

令和6年10月16日発行第7号

小田原市立橋中学校

校訓：豊かさ・確かさ・たくましさ

校長 磯辺 和彦

9月に入っても猛暑日が続いていましたが10月になり、ようやく暑さも落ち着き、秋らしさを感じる季節になりました。前期の締めくくりとして、学習発表会では、素晴らしい発表や歌声を響かせてくれました。どの学年もそれぞれ学校の3年生は「顔」、2年生は「柱」、1年生は「宝」として、充実した取り組みができたと感じています。

学校は一年間のちょうど折り返し地点、この折り返し地点がゴールまでの肝となります。前期は調子よく走ることができたか？ブレーキ気味だったかを振り返る重要な地点です。調子が良かったのはなぜか？調子が悪かったのは何が原因か？これからどんな工夫をしたらゴールまでたどり着くのか？ここでの点検と修正が完走を左右するはずですよ。

金碧輝煌～光い輝く笑顔～

令和6年度学習発表会のテーマは「金碧輝煌（きんぺきこう）」。「美しく光が輝くこと。見とれるほど美しいものを表わす言葉。」

学習発表会では、展示発表、ステージ発表、にじうたコンサート、どれも個性豊かな作品、どの生徒もクラスも美しく輝く発表でまさにテーマを体現する内容でした。真剣な取り組みのあとの満足感あふれる笑顔がとても素敵でした。

特に、各学級で工夫を凝らして練習に取り組んでいた合唱では、心を合わせてきた一体感とハーモニーがはっきりと「表現」されていました。



今年の1年生は幸せです。中学校最初の学習発表会で、あんなに素敵な先輩方のパフォーマンスを間近で見られたのですから…。先輩たちの真剣なパフォーマンスを食い入るように見つめる1年生。背筋もピンとしている。百聞は一見に如かず。そのせいでしょうか？午後の1年生の合唱の声も、表情も、明らかに変わったように感じています。こうやって「橋中生の目指すべき姿」が継承されていくのですね。1年生、よく頑張りました！そして、先輩方、素晴らしい姿を1年生に見せてくれて、本当にありがとうございます！橋中学校の素敵な文化のバトン繋がります。

（1年主任 海老原）



「1年間での成長はすごい！！」率直な感想です。1年生としての昨年はよくわからないまま言われたことを言われたように素直に取り組んできました。しかし、今年は違います。「知らない・わからない」とは言えません。2年生として、3年生の背中を見ながら自分たち自身が精一杯取り組むことで1年生への手本を示す。「自ら考えて判断し行動する」ことを意識しながら行事に取り組みました。日頃の授業での成果物も力作ぞろいでした。集中して授業に臨んでいることが見て取れました。

そして合唱です。にじコン係を中心に自分たちで進めてきました。担任の先生に「もう十分じゃない？」と言われ「いや、まだできそうな（上手になれそうな）気がします」と答えられるその意識と姿勢。その思いをクラスや学年全体で共有できている結果があの歌声になっていたと思います。まとまりのある（みんなが同じことを意識している）素敵な歌声でした。自分たちで課題をみつけ取り組んだからこそ、素敵な成果となりました。主体的に取り組むことの実践を見せてもらった気がします。皆さんの成長を頼もしく感じられた行事への取り組みでした。ありがとうございます！そして、これからの学校生活にも期待しています。

（2年主任 山崎）



学年合唱を歌う前にみんなで円陣を組み、気持ちを高める姿に目頭が熱くなり、「地球星歌」（学年合唱）のきれいなハーモニーに、「証」（3年2組）の迫力に、「IN TERRA PAX」（3年1組）の一体感に鳥肌が立ちました。

3年間積み上げてきた「みんなで創る」学校行事の集大成となるにじコン。運動会の時には競技の作戦や応援の仕方などで「楽しみ方」を伝えてきた3年生は、にじコンでは歌う姿で先輩から引き継いできた「発表の楽しみ方」を伝えてきました。直接的に歌い方を教えることは難しくても、「姿でみせる」ことは誰しもが意識すればできること。でも、その当たり前のことを全員で一斉にできるかが課題でした。ステージでは歌う前の凜とした立ち姿や緊張感、心合わせて歌おうと指揮者をみつめる視線、静かな会場に響き渡る余韻など、歌声だけでなくその姿を含めて3年生の心を伝えられました。ただ、この発表は3年生だけで創られたものではありません。1、2年生や先生方、保護者や地域の皆様など会場にいた全ての人たちがいて創り出されたものだということに多くの3年生が気づいています。この感謝の気持ちを胸に、あと6カ月の中学校生活を充実させ、卒業式でも感謝を伝える歌声を響かせたいです。

（3年主任 日野）

